

第1号議案

令和3年度 事業報告

1. 通常総会

第62回通常総会は、令和3年5月28日(金)本工学会会議室よりオンライン(Webex Meetings)形式にて開催した。出席者は委任状とも1,429名で、定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより、本総会の議長は会長がこれにあたるとしており、井上会長を議長とし、議事の審議にあたった。

(1) 議 事

議事録署名人については、定款第19条により、議長および議長が指名する出席者2名以上としており、出席正会員の中から阿波野昌幸氏および前田晴人氏の2名が指名され、令和2年度事業報告、同収支決算報告、役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また、令和3年度事業計画、同収支予算についての報告があり、いずれも了承された。

(2) 名誉会員推挙

竹田清二殿、丸山久一殿、脇本 優殿が名誉会員に推挙された。

(3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

令和2年度(第48回)授賞は、論文賞1件、作品賞5件、技術開発賞1件、施工技術賞3件の計10件である。

○ 論文賞

- ビーム・アーチ機構を考慮したPC梁のせん断耐力
(会誌62巻5号) Devin Gunawan 殿
大 窪 一 正 殿
中 村 拓 郎 殿
二 羽 淳一郎 殿

○ 作品賞

(土木部門)

- 矢賀こ線橋 西日本旅客鉄道(株) 殿
広島市 殿
ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) 殿
大成建設(株)・広成建設(株)特定建設工事共同企業体 殿
- 江川大橋 (独)水資源機構 殿
(株)長大 殿
三井住友建設(株) 殿

(建築部門)

- 栃木県総合運動公園陸上競技場
栃木県 殿
 (株)久米設計 殿
 A I S 総合設計(株) 殿
 (株)本澤建築設計事務所 殿
 鹿島建設(株) 殿
 (株)増渕組 殿
 渡辺建設(株) 殿
 那須土木(株) 殿
 磯部建設(株) 殿
 (株)浜屋組 殿

- 北区立田端中学校
東京都北区 殿
 シーラカンス K & H 殿
 (株) K A P 殿
 越野・川田・高山異業種特定建設共同企業体 殿
 オリエンタル白石(株) 殿

(改築・改修部門)

- 中央道上田川橋の更新
中日本高速道路(株) 名古屋支社 殿
 (株)大林組 殿

- 技術開発賞
 - P C 防液堤のプレキャスト化
鹿島建設(株) 殿

- 施工技術賞
 - 首都高速 1 号羽田線 鮫洲埋立部 (更新 I 期線)
首都高速道路(株) 更新・建設局 殿
 大林・清水・三井住友・東亜・青木あすなろ・川田・東骨・MMB・宮地 J V 殿

 - U 型リフティング架設の合理化
中日本高速道路(株) 殿
 三井住友建設(株)・(株)日本ピーエス・極東興和(株) J V 殿
 三井住友建設(株)・川田建設(株)・ドーピー建設工業(株) J V 殿

 - 富良野大橋 A 橋上部工事
国土交通省北海道開発局 旭川建設部富良野道路事務所 殿
 (株)大林組 殿

以上の賞について、工学会賞選考委員会宇治公隆委員長より選考結果が報告された。授与式は省略し、受賞者には賞状と副賞として記念盾がそれぞれ贈られた。

2. 理 事 会

通常理事会を10回（8月，2月を除く毎月），臨時理事会を1回（5月）オンライン会議にて開催した。

議事録要旨は会誌の工学会記事欄に記載しており，省略する。

3. 会誌等の発行

会誌は隔月に6回計21,300部を発行した。

4. 委 員 会

【常設委員会】

(1) 総務委員会

総務委員会をオンライン会議にて7回（4月，6月，7月，10月，12月，1月，3月）開催した。4月はオンライン総会の開催方法，6月は役員の職務分担，7月は各委員会名簿確認および受託研究取扱規定案，10月は上期収支決算，12月は役員候補者，年間主要事業について審議を行った。1月は役員候補者，名誉会員候補者について検討を行い，3月は役員人事，名誉会員推挙，令和4年度事業計画案および同収支予算案を審議した。

(2) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月）オンライン会議にて開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を年度6回発行した。第63巻4号，6号，第64巻2号は特集号とし，それぞれ「建築特集」，「東日本大震災から10年～つなぐおもい～」，「PCの新たな取組み」を企画特集した。

(3) シンポジウム実行委員会

委員会を5回，総務・広報・学術・現地WGを合計6回開催し，第30回シンポジウムの企画と運営を行った。当初，北海道函館市の函館アリーナでの開催を予定していたが，4月2日開催の委員会においてオンライン開催形式（オンデマンド配信）への変更を決定した。

昨年に続いてのオンライン大会を終えて，12月の委員会で総括を行い，参加者および実行委員へのアンケート結果などをもとに次回に向けた議論を行った。令和4年1月からは島根県松江市のくにびきメッセで開催する第31回シンポジウムの準備に取りかかった。

(4) PC技術規準委員会

委員会を1回，幹事会を1回開催し，委託研究，講習会開催方法の検討，新たな規準作成小委員会の立ち上げなどについて検討を行った。

1) PC斜張橋・エクストラドーズド橋設計施工規準改訂小委員会

幹事会を1回開催し、電子メールによる審議を重ねて原稿をまとめ、令和4年1月に「PC斜張橋・エクストラード橋設計施工保全規準」を発刊した。令和4年2月16日に開催を予定していた会場での講習会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。改めて令和4年4月にオンデマンド動画配信による講習会を開催することとしてオンライン会議2回を開催し、講習資料および動画の作成を行った。

2) PC橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会

委員会を2回、幹事会を5回開催し、規準の記載内容の方針に関する討議と規準の作成、小委員会内での意見照会を行った。なお、受託研究委員会「PC連続Uコンポ橋の継目部に関する設計指針検討委員会」の検討内容も本規準に反映させるべく、小委員会の活動を令和5年3月まで1年間延長することとした。

(5) PC鋼材委員会

既設構造物の維持管理・点検について、PC鋼材の腐食やPCケーブルの点検・補修技術に焦点をあて、委員会にて漏洩磁束法によるコンクリート構造物内の鋼材破断の調査、PCケーブルの健全性診断、海外におけるPCケーブルの補修等に関する最新技術の紹介および討議を行った。その他、PC鋼材に関わる海外規準として、*fib* Commission-5に参画し、国際規準作りに国内意見を反映させたことが紹介され、本規準について討議を行った。加えて、PC鋼材に関連する報告書として、日本コンクリート工学会「接合部を有するプレキャスト・プレストレストコンクリート構造の設計法研究委員会」の活動内容が委員会にて紹介された。

(6) PCサステナビリティ委員会

サステナビリティ宣言に基づく本工学会の今後の活動について議論を進めるため、委員構成を見直す方針とした。

(7) PCアーカイブス委員会

委員会を1回、幹事会を1回開催した。7月末に冊子「PCアーカイブス 2021：PCの先駆者たち」（人物編22名、企業編21社）を発行し、会員および関係機関に配布した。第48回PC技術講習会において、題目「PCアーカイブ「第一大戸川橋りょう」」を講演した。第一大戸川橋梁は8月2日に国の重要文化財に指定され、会誌に慶事記事、他誌に寄稿を行ったほか、PC技術講習会テキスト原稿の英訳化を行った。幹事会では次回PC技術講習会の講演題目の選定と今後の活動について議論し、3月に開催した委員会では令和3年度事業報告と今後の委員会活動について審議した。

(8) PC技術講習会委員会

委員会を2回、小委員会を1回開催し、令和3年6月に開催した第48回PC技術講習会（オンライン形式）の受講者アンケート結果を踏まえて十分な審議を行い、次回第49回PC技術講習会の開催形式およびプログラムを決定した。全国3地域の有識者による特別講演と

テキスト講演題目7題を設定した。

(9) PC 技士委員会

委員会を1回、各小委員会を8回開催し、第28回プレストレストコンクリート技士試験に関する諸準備を整え、令和3年10月17日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に試験を実施し、12月2日に合否の判定を行った。

(10) コンクリート構造診断士委員会

委員会を1回、各小委員会を8回開催した。受験者および更新登録者を対象にeラーニングによるコンクリート構造診断技術講習を実施した。令和3年7月11日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に試験を実施し、10月5日に合否の判定を行った。

(11) 国際委員会

1) 国際委員会・国際対応小委員会

「PC工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと、ならびに日本のPC技術を海外へ情報発信すること」を目的に、令和3年度は以下の活動を行った。

- ① *fib* の総会、理事会、Presidiumに参加した。（国際委員会）
- ② *fib* の各種委員会（Commission 1, 3, 5, 7, 10ならびにそれらの下のTask Groupなど）に参加した。（国際委員会、国際対応小委員会）
- ③ PC工学会英文ホームページの更新を行った。（国際対応小委員会）
- ④ PCシンポジウムの海外からの特別講演の企画、運営を行った。（国際対応小委員会）
- ⑤ PC技術講習会の国際関係のテキスト執筆と講演を行った。（国際対応小委員会）
- ⑥ PC工学会の国際関連業務を整理するため、これまでの国際委員会と国際対応小委員会を統合した。（国際委員会、国際対応小委員会）

2) 国際活動関係

① *fib* Presidium

2021年2月27日、28日オンラインで、そして、2021年9月20日、21日ローザンヌで開催されたPresidiumに春日昭夫理事が出席した。

② *fib* 総会

2021年9月19日にローザンヌで開催された総会に春日昭夫理事が出席し、中村 光常務理事がオンラインで出席した。

③ *fib* 理事会

2021年9月18日、19日にローザンヌで開催された理事会に春日昭夫理事が出席し、中村 光常務理事がオンラインで出席した。

④ *fib* 委員会

2021年6月11日、2021年12月10日、オンラインで開催された *fib* モデルコード2020の委員会、Commission 10のTG10.1に下村 匠副会長、春日昭夫理事が出席した。

⑤ *fib* シンポジウム

2021年6月14日～16日、リスボンでシンポジウムがオンラインで開催され、春日昭夫理事が会長として開会式で講演をおこなった。

(12) P C工学会賞選考委員会

第49回（令和3年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考のため、3回の委員会を開催した。令和4年3月31日開催の第3回目の委員会の討議を経て、論文賞2件、作品賞7件（土木部門4件、建築部門2件、改築・改修部門1件）、技術開発賞1件、施工技術賞1件を受賞候補に選出し、これを4月度理事会に答申した。

【公募研究委員会】

(1) 浜松町駅旅客ホーム上家調査委員会

1954年竣工の日本最古のP C建築物である「浜松町駅旅客ホーム上家」が令和3年2月に解体された。旧国鉄の建築物として初めてP C構造が採用、建設されたものである。

委員会をオンライン併用で2回開催した。調査対象部材は、ポストテンションP C柱1部材、プレテンションP C梁1部材、プレテンションP C屋根板3部材で、6月17日に日本大学理工学部船橋キャンパスに東日本旅客鉄道(株)との覚書きのもと搬入された。第2回委員会は同キャンパスにて開催し、調査予定項目と取りまとめ方針を共有し、委員会内に部材の劣化調査を担う部材調査WGと、建設時の資料および文献を調査する文献調査WGを設置し、作業を進めることとした。また、調査対象部材の見学も行った。

【受託研究委員会】

(1) 連続繊維補強材のP C構造物への適用に関する委員会

令和2年9月に発刊した「繊維強化ポリマー（FRP）のコンクリート構造物への適用に関する設計・施工指針」について英文化を行った。タイトルは「RECOMMENDATION FOR DESIGN AND CONSTRUCTION OF CONCRETE STRUCTURES USING FIBER REINFORCED POLYMER (FRP), July 2021」とした。本指針の発行部数は200部である。

(2) 既設ポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会

変状の発生およびそのおそれがある既設P Cポストテンション橋の診断および対策の方法に関する技術指針を作成することを目的に、委員会および幹事会において討議した。技術指針については、「既設P Cポストテンション橋保全技術指針」として令和4年1月に発刊した。

(3) P C連続Uコンボ橋の継目部に関する設計指針検討委員会

当該形式は、およそ1径間分のU桁を現地ヤードにて一体で製作し、あらかじめ施工した柱頭部間に順次架設するサイクルを繰り返すことで、現場作業の生産性向上を図った構造である。この構造では、U桁と柱頭部との継目部においてひび割れが生じることがあるため、さらなる耐久性向上を図るための設計指針策定を目的として、中日本高速道路(株)東京

支社の委託により本委員会を設立した。令和3年度は委員会を2回、幹事会を2回開催し、継目部に生じる局所的な応力の解析的評価方法や設計指針案の内容について審議した。

5. 講習会等事業

(1) 第48回P C技術講習会

昨年中止とした第48回P C技術講習会を令和3年6月7日（月）から6月21日（月）の15日間にわたりオンライン形式（オンデマンド動画配信）で開催した。受講者は3,167名で、648名からW e bアンケートの回答を得た。

(2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

「第30回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム（函館）」は、新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため、現地函館会場での開催を取りやめ、オンライン（オンデマンド動画配信）で令和3年10月21日（木）から10月29日（金）の9日間にわたり開催した。

函館工業高等専門学校教授の澤村秀治氏、スイス連邦工科大学のProf. Robert J. Flatt氏による特別講演と、161題の論文、報告の発表が行われ、優秀講演賞17名を表彰した。技術展示およびワークショップは中止した。開催期間中、参加者にW e bアンケートを実施した。

参加者は504名で、法人正会員、賛助会員のほか、関係諸団体を合わせて48団体から後援があった。

6. 資格認定事業

(1) プレストレストコンクリート技士制度

1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

令和3年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を、令和3年9月6日（月）から9月13日（月）にわたり、オンライン（オンデマンド動画配信）で、再登録研修を令和3年9月6日（月）にオンライン（録画ライブ配信）にて開催した。受講者は計90名であった。

2) プレストレストコンクリート技士試験

令和3年度のプレストレストコンクリート技士試験を、令和3年10月17日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は274名で、試験の合格者は74名であり、会誌第64巻1号およびホームページに掲載発表した。

3) プレストレストコンクリート技士登録

令和3年度標記試験合格者の登録者は74名で、登録更新者は1,786名（更新対象者は2,213名）であった。また、再登録者が29名あり、令和3年度のプレストレストコンクリート技士登録者は合計1,889名となった。その結果、令和3年度末の有資格者（登録者）は4,976名である。

(2) コンクリート構造診断士制度

1) コンクリート構造診断技術講習

令和3年度のコンクリート構造診断士試験に先立ち、任意受講のコンクリート構造診断技術講習（Web上でのeラーニング）を、3月1日から7月10日の期間、実施した。受講申込者は、141名で、受講修了者は112名であった。

2) コンクリート構造診断士試験

令和3年度のコンクリート構造診断士試験を、令和3年7月11日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は236名で、試験の合格者は86名であり、会誌63巻6号およびホームページに掲載発表した。

3) コンクリート構造診断士登録

令和3年度標記試験合格者の登録者は、86名であった。コンクリート構造診断士の登録更新者は278名（更新対象者は302名）で、再登録者は4名であった。令和3年度末の有資格者（登録者）はコンクリート構造診断士1,328名である。

○事業報告に係る附属明細書について

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和4年4月

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会